

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年二月度 入選句(投稿総数千二百二十一句・小中学投句数六百二十四句)

特選

地球から小さないのちふきのとう 大垣市 松岡 祐里奈(小五)

季語は、「ふきのとう」(春)。この句のいいところは、ふきのとうの芽の出たのを見つけて、「地球から小さないのち(が生まれたよ)」と詠い上げたことです。ふきのとうは、地面のいたる所から丸い芽を出します。その地面を地球から小さな生命が誕生したと表現したところが、ダイナミックで、読み手を引きつけて離さない一句となりました。

かじかむ手母がにぎって赤くなる 大垣市 木村 ひな胡(小六)

季語は、「かじかむ」(冬)。寒さで、手の指先などが感覚を失って自由にならなくて困ってる作者の様子を見てとったお母さんが、とっさに両手にぎって温めてくださったのですね。すると、血の気を失っていた手が、ぽうつと赤らんで来たというのです。作者は、お母さんの手のぬくもりを体全体で受けとめたに違いありません。読み手にも、その感触が伝わってくるようです。

しゃぼんだまふいてはじけてまたふいて 大垣市 矢島 萌々佳(小四)

季語は、「しゃぼんだま」(春)。しゃぼん玉とばしは、幼いころから石けん水にストローや麦わらの先を割って浸し、息を吹き込んで飛ばした経験がありますね。この石けん水の濃さや息の吹き込み方がむずかしく、大きな風船を高く遠くに飛ばすのは「苦労」です。作者が、「吹いてはじけてまた吹いて」をくり返して遊んでいる様子が、目に浮かぶようです。「中七、下五」のくりかえし表現が生き生きしています。

秀逸

一言が心に残る年賀状 大垣市 田中 琉聖(小六)

ばあちゃんを作ったマフラー温かい 大垣市 川瀬 もあ(小三)

友の顔思いうかべてがじょう書く 大垣市 大久保 実咲(小三)

ブロッコリーおなべのおふろでおどってる 大垣市 中嶋 羽衣音(小三)

バレンタイン自転車こいでとどけます 大垣市 畑中 ほのか(小五)

雪積り地面のキャンバスそめていく 大垣市 本郷 李怜(小五)

毛糸編む犬にもあげるニット服 大垣市 菅野 あいり(小五)

ふきのとう空に向かってせのびする 大垣市 立神 花芽里(小五)

入選

雪だるま運動場にひっそりと 大垣市 丸井 北斗(小六)
 寒げいこ気合いを入れて挑戦だ 大垣市 堀口 立起(小六)
 お兄ちゃん入学しけんがんばって 大垣市 大澤 志保(小四)
 おじいちゃん草餅食べて語りだす 大垣市 村尾 椋也(小四)
 ひつじどし迎えるぼくは年男 大垣市 三輪 一翔(小六)
 えほうまきしずかに食べてねがいごと 大垣市 大橋 琉生(小三)
 節分のいっぱいのこった豆のかず 大垣市 平田 ひなの(小三)
 雪ふる日道が消えてく登下校 大垣市 馬淵 裕輔(小五)
 チューリップいろとりどりの花が咲き 大垣市 高橋 歩花(小五)
 庭の木に小さなつぼみ春を待つ 大垣市 富田 優美(小五)
 春風がほっぺくすぐりあかくなる 大垣市 大倉 優舞(小五)
 息白くみんなのほおは真っ赤っか 大垣市 井上 奈菜未(小五)

入選

けん玉がやっと入った冬の朝 大垣市 西田 千紗(小六)
 雪うさぎいきてるみたいあそぼうよ 大垣市 吉岡 優風(小四)
 ひなまつりみんなでかざって写真とる 大垣市 瀬口 愛以花(小四)
 風花がはるか山から届けられ 大垣市 五島 夕貴恵(小五)
 下向いて水たまりにも春の虹 大垣市 中島 寧々(小五)
 つくしんぼ草にまざってかくれんぼ 大垣市 高橋 彩夕奈(小三)
 春の草風にふかれて歌歌う 大垣市 高橋 彩夕奈(小三)
 こうえんにあそびにいこうしろいき 大垣市 なわ みゆう(小一)
 朝早く粉雪がまう通学路 大垣市 重久 和真(小五)
 雪だるまいつのまにかきえていた 大垣市 川瀬 英理香(小五)
 春の朝やわらかな日がふんわりと 大垣市 伊藤 誠章(小五)

選者吟

波に乗り波に隠くるるかひつぶり

幹郎